様式Ｃ－１９

# 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成２５年　３月３１日現在

機関番号：３２６３６
研究種目：基盤研究（Ｃ）
研究期間：2010 ～ 2012
課題番号：22520371
研究課題名（和文）　周曰校刊『三国志通俗演義』についての研究

研究課題名（英文）　A Study of”Sanguozhi-tongsuyanyi”printed by Zhouyuexiao

研究代表者
中川　諭（NAKAGAWA SATOSHI）
大東文化大学・文学部・教授
研究者番号：20261555

研究成果の概要（和文）：
周曰校刊『三国志演義』について研究を進めた。周曰校本には甲本・乙本・丙本の区別があるが、そのうち甲本の刊行が万暦 10 年から 15 年ごろである。また乙本は甲本の単純な覆刻ではない。同じように丙本は乙本の単純な覆刻ではない。乙本が編集される際には、甲本の本文に修訂が加えられている。丙本が編集される際も同様である。そして夏振宇本は甲本と、夷白堂本は乙本と密接な関係にある。

研究成果の概要（英文）：
I advanced research on the edition of"Sanguozhi-tongsu-yanyi(三国志通俗演義)" printed by Zhouyuexiao（周曰校）.
There are three kinds of Zhouyuexiao editions. In the inside of them, Publication of Jia-editin(甲本) is around Wanli(万暦)10-15(1582-1587).Yi-edition(乙本) is not simple reproduction of Jia-edition. Are the same, Bing-edition(丙本) is not simple reproduction of Yi-edition. When Yi-edition is edited, the text of Jia-edhiton was corrected. It is also the same as when Bing-edition is edited.
A edition printed by Xiazhenyu（夏振宇） has as close a relation as Jia-edhition, and a edhition printed by Yibaitang（夷白堂） has as close a relation as Yi-edhition.

交付決定額

（金額単位：円）

| | 直接経費 | 間接経費 | 合　計 |
|---|---|---|---|
| 2010 年度 | 500,000 | 150,000 | 650,000 |
| 2011 年度 | 500,000 | 150,000 | 650,000 |
| 2012 年度 | 500,000 | 150,000 | 650,000 |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 総　計 | 1,500,000 | 450,000 | 1,950,000 |

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：文学・各国文学・文学論
キーワード：『三国志演義』、版本、周曰校、書誌学、出版文化

## １．研究開始当初の背景

1998 年に拙著『『三国志演義』版本の研究』が上梓され、これによって筆者の『三国志演義』版本研究は、いちおうの結論を見ることとなった。しかし拙著はあくまで“いちおうの結論”に過ぎず、これで『三国志演義』の版本研究が完結したわけではなかった。拙著の刊行後、中国でも『三国志演義』の版本研究が活発に行われ、興味深い研究成果が発表された。また筆者も、拙著で取り上げられな

かった資料の調査をすすめ、拙著刊行後も新たな知見を得られるようになってきた。

ところで『三国志演義』のみならず従来の古典小説の版本研究では、一つの書肆が刊行した版本は一種類であるという考え方が前提で行われていた。しかしその前提は必ずしも正しくはないのではないかと考えられるようになってきた。特に南京の書肆周曰校が刊行した『三国志演義』のテキストについては、複数の刊本が存在することが分かってきた。さらに韓国で周曰校本の翻刻本が発見された。この本は従来知られていた周曰校本とは版式を異にしており、『三国志演義』の版本研究についての重大な問題の存在を示唆している。しかしこれら複数の周曰校刊『三国志演義』についての研究は未だ深く行われていなかった。

２．研究の目的

明代末期の南京にあった書肆である周曰校が刊行した『三国志通俗演義』について、あらゆる方面から検討・考察を行う。本研究においては、次の点について明らかにしようと計画している。

(1) 四種類の周曰校刊本および仙台・伊達文庫蔵の周曰校本の相互関係の解明

劉世徳氏の研究成果を踏まえながら、さらに伊達文庫蔵本について詳細な調査を行う。そして現存する数種類の周曰校本は、果たしてどのように異なっているのか、相互の関係はいかなるものなのかについて明らかにしていく。

(2) 南京刊周曰校本と朝鮮復刻本との関係の解明

朝鮮復刻本はよく知られている周曰校本とは版式を異にし、中国社会科学院蔵本にきわめて近いということである。しかしその一方で朝鮮復刻本独自の文章・文字も存在しているようだ。そこで南京で刊行された周曰校本諸本と朝鮮復刻本とを詳細に比較し、両者の関係を明らかにする。

(3) その他の『三国志演義』諸本との関係の解明

周曰校本ときわめて密接な関係にある版本として、上海図書館蔵の残葉・夷白堂本・夏振宇本がある。これら諸版本は、周曰校本のどの本とより密接につながるのであろうか。また周曰校本に先んずる版本である嘉靖本との関わりはいかなるものなのであろうか。さらに『三国志演義』諸本、特に二十四巻系諸本の分化の過程をさらに深く追求する。

３．研究の方法

本研究を遂行し目的を達成させるために、資料収集・資料整理・画像データの比較と分析・テキストデータの比較分析結果との対照・成果公表という手順をとる。書誌学（版本学）という本研究の性質上、資料はできるだけ原本に直接当たることが望ましい。周曰校本は、日本国内には東京の国立公文書館、名古屋の蓬左文庫、仙台の宮城県図書館伊達文庫に蔵されている。中国には北京の中国社会科学院文学研究所・中国国家図書館・北京大学図書館に蔵されている。これらの機関を直接訪れて、資料を閲覧し、可能であれば複写をする。画像データやテキストデータの比較は、コンピュータ上で周文業氏が開発された「図像比対」・「文本比対」などのプログラムを利用して行う。これにより、手作業では数ヶ月から年単位の時間を必要としていた作業が、数十分から数時間程度で行うことができる。コンピュータによる比較結果に基づき、細かく分析を行う。一字一字の違い・文章の違いや、版式・版面の違いから、各種の周曰校本の先後関係・相互の関係を明らかにする。これらの作業を通して得られた結果をまとめて、国内外で開催される学会で口頭発表したり、研究雑誌などに論文を発表したりして、成果を公表する。

４．研究成果

(1)『三国志演義』の夷白堂本と周曰校本

慶應義塾大学に蔵される『新鐫通俗演義三国志伝』は、明代万暦年間の書肆夷白堂によって刊行された『三国志演義』の版本の一つである。かつて筆者は、この本は周曰校本と密接な関係にあることを明らかにした。しかし近年の研究で、周曰校本は複数存在することが明らかになった。夷白堂本は周曰校が刊行したどの版本にもっとも密接な関係にあるのだろうか。周曰校甲本の存在が確認され、従来一般的に「周曰校本」と呼ばれてきた乙本や丙本よりも刊行年が早いのであれば、夷白堂本と周曰校甲本との関係を考察しなければなるまい。本研究は再度夷白堂本を取り上げ、あらためて夷白堂本と周曰校が刊行した『三国志演義』との関係を明らかにし、夷白堂本の文章の持つ特殊性を考察しようとするものである。

夷白堂の本文を周曰校甲本・乙本・丙本と詳細に比較検討した結果、夷白堂本はやはり周曰校乙本・丙本に近い版本であるが、しかしながら周曰校刊本を底本としたものではなく、周曰校乙本と夷白堂本に共通する一つの底本（あるいは祖本）から出たものであることが明らかになった。また夷白堂本の文章はその他の二十四巻系諸本に比べて簡略になっているところがある。しかしその簡略化の方法は夷白堂本独自のものであり、簡本系の簡略化の方法とは全く異なっている。

(2) 周曰校刊『三国志演義』について

周曰校刊『三国志演義』には三種類の区別

がある。すなわち、甲本・乙本・丙本である。そのうち、丙本は少なくとも六種類が現存している。この五種類の丙本を比較すると、その印刷状態から、蓬左文庫蔵本の印刷が最も早く、伊達文庫蔵本がこれに次ぎ、以下、京都産業大学図書館小川文庫蔵本、内閣文庫蔵本、中国国家図書館蔵本、台湾故宮博物院蔵本の順で印刷されたことが分かる。

書肆周曰校は新刊本を出版して後、すぐに中国国外へ輸出していた。周曰校丙本のうち、印刷状態の比較的良い早い時期の印本はいずれもみな日本国内に蔵されていることからも、それが理解できる。また現存する周曰校刊の書籍の出版年から、周曰校は明らかに万暦年間に活躍していた書肆である。このような状況の中、周曰校乙本の刊行年は、封面の識語の記載・序文の後の記載から、万暦十九年で間違いない。だとすると甲本の刊行年もそれから数年前、すなわち万暦十年から十五年頃と考えるべきで、嘉靖年間まで遡る必要はない。

(3) 周曰校刊『三国志演義』の甲本・乙本・丙本

周曰校刊『三国志演義』には甲本・乙本・丙本の三種類が存在している。では、これら三種は相互にどのような関係にあるのであろうか。単に底本と覆刻本という関係に過ぎないのであろうか。本研究ではこの三種類の周曰校刊『三国志演義』をめぐるいくつかの問題について論じようとするものである。

これら三本は、各巻の巻頭に「明書林周曰校刊行」と題していることからも分かるように、密接な関係にある。そしてその刊行順序も、甲本が最も早く、乙本がそれに次ぎ、丙本が最も遅いことも間違いない。

三種類の周曰校本のうち、乙本はイェール大学図書館と北京大学図書館に蔵されている。この両者を比較すると、印刷された文字の摩滅の仕方・版木の割れ目の状態から、イェール大学蔵本の方が北京大学蔵本よりも印刷の時期が早いと考えられる。

甲本・乙本・丙本は密接な関係にあるとはいえ、単純な覆刻あるいは翻刻という関係にあるのではない。正字と俗字・略字の違いの他、わずかながらも文字の異同も存在している。その文字の異同に着目して比較検討を行うと、三本の相互の関係が明らかになってくる。乙本が編集される際には甲本の（あるいは甲本のような）文章にある程度修正が加えられており、丙本が編集される際も同様である。そして甲本と乙本は恐らく周曰校自身による刊行であろう。しかし丙本は、必ずしも確証があるわけではないが、もしかしたら周曰校自身によるのではなく、福建建陽の書肆（余象斗か？）の手による刊行であるかもしれない。

(4) 夏振宇本『三国志伝通俗演義』について

夏振宇本『三国志伝通俗演義』は周曰校本と密接な関係にある版本である。一方周曰校本には甲本・乙本・丙本の三種類があることが明らかになってきた。しかし従来の夏振宇本に関する研究では、周曰校丙本との関連でしか考察されておらず、その点において十分とは言えない。そこで本研究では、最近の周曰校本や朝鮮覆刻本・活字本など新発見資料について触れながら、夏振宇本について改めて考察しようとするものである。

夏振宇本の本文を周曰校甲本（朝鮮活字本）・周曰校乙本・朝鮮活字本と詳細に比較していくと、文字の異同や文章の脱落を見いだすことができる。その本文の異同の中には周曰校乙本よりも古いもとの形を留めていると思われる個所があり、よってその底本は周曰校乙本より古い版本、すなわち周曰校甲本かそれにきわめて近い版本であろうと考えられる。また夏振宇本の本文には、底本の文章を独自に大きく改めた個所を見いだすことができる。その中には、「呉臣趙咨説曹丕」の一節のように、先行する底本に脱誤があって読めなくなっている個所を見事に修正したところがある。その一方で「青梅煮酒論英雄」の一節のように、文章の前後の内容を誤って理解してしまい、文章を書き改めてしまった結果、かえって誤ってしまったという例もある。また修訂を行う中で、いわゆる「同詞脱文」によって文章の一部を脱落してしまう誤りを生じることもあった。このように、底本の文章を修訂したということは、夏振宇本の一つの大きな特徴と言うことができるであろう。さらに、近年発見された朝鮮活字本の文章と夏振宇本と比較検討した結果、二十四巻系諸本の中においてそれほど近い関係にはないことが明らかになった。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計４件）


① 中川諭、夏振宇本『三国志伝通俗演義』について、三国志研究、査読有、第８号、2013、（掲載確定）

② 中川諭、周曰校刊『三国志演義』の甲本・乙本・丙本、林田慎之助博士傘寿記念三国志論集、2012、査読無、P407-430

③ 中川諭、周曰校刊『三国志演義』について、東北大学中国語学文学論集、査読無、第16号、2011、P57-72

④ 中川諭、『三国志演義』の夷白堂本と周曰校本、三国志研究、査読有、第６号、2011、P59-68

〔学会発表〕（計４件）
① 中川諭、イェール大学蔵周曰校本『三国志演義』について、中国古典小説研究会 2012 年度大会、2012 年 8 月 31 日、国立女性教育会館
② 中川諭、耶魯大學《三國志演義》周曰校本考察、第十一届中国古代小説、戯曲文獻暨數位（字）化國際學術研討會、2012 年 8 月 21 日、嘉義大学（台湾）
③ 中川諭、《三国志演义》的夷白堂本与周曰校本、中国明代文学学会第八届年会暨 2011 年明代文学与文化国際学術研討会、 2011 年 8 月 17 日、首都師範大学（中国）
④ 中川諭、关于周曰校刊《三国志演义》、第十届中国古代小説・戯曲文献与数字化研討会、 2011 年 8 月 14 日、首都師範大学（中国）

(1)研究代表者
中川 諭（NAKAGAWA SATOSHI）
大東文化大学・文学部・教授
研究者番号：20261555